

1 学校教育目標 徳・知・体のバランスのとれた質の高い桜っ子の育成 —桜岡「や」「か」「た」づくり—	2 本年度の重点目標 ① 学力の向上 ② 生徒指導の充実 ③ 体力向上の取り組み ④ 特別支援教育の充実 ⑤ 業務改善・教職員の働き方改善の推進
---	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
① 学力の向上						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
教育活動	● 志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動を行ったか。	・集団の一員として、よりよい学校づくりに参画できる場を設定する。 ・学校生活の充実のため、諸問題を話し合い、協力してその解決を図る姿勢が身に付くようにする。	・児童集会の計画や運営を自主的に進める場を設定する。 ・行事や諸活動の計画・立案を行うための代表委員会を実施する。 ・学校の一員としての意識を持たせ、活躍できる委員会活動の充実を図る。	教務 かしのい 部 (児童会 担当)	真子 宮崎 桑原
教育活動	● 学力の向上	分かる授業への改善を行ったか。	・一人ひとりが考える場を設定する。 ・算数の重点単元の強化を図る。 ・伝え合う場を設定する。 ・補充学習の場の設定をする。	・自分の考えを表現する(書く・話す)場を授業の展開の中で設ける。 ・重点単元の指導体制の強化を図るために少人数体制や習熟度別学習等を臨機に行う。 ・授業中の交流の場で「桜岡スタイル」を国語科にも生かす。 ・給食準備中の補充指導「はらべこ算数」の場を作り、個別に支援できる体制をつくる。	研究主任 指導法改 善	福田 黒田 南
教育活動	● 学力の向上	児童の基本的な学習習慣は育成できたか	・「背・目・手」(背筋を伸ばし、相手の目を見て、手ませをしない)を意識した学習態度を85%以上の児童が身に付くようにする。	・授業中、児童に声をかけるなどし、「背・目・手」を意識させて学習に臨ませる。 ・ノートの書き方を具体的に指導する。 ・休み時間の合い言葉「か・つ・お」ふでばこの中身について職員間で共通理解し、学習規律の確立を徹底していく。	教務 かしのい 部	宮崎 小柳 坂田
教育活動	● 学力の向上	家庭学習の充実を果たせたか。	・「低学年は30分、中学年は45分、高学年は60分以上家庭学習」を行う児童を80%以上にする。	・「家庭生活・学習カード」を活用し、家庭と連携しながら家庭学習の充実を図る。 ・「家庭学習の手引き」を全家庭に配布し活用を呼び掛ける。 ・「桜っ子自主学習のススメ」を3年以上の児童に配布し、自主学習に取り組ませ、週2回ノートを提出させる。	かしのい 部 指導法改 善	小柳 黒田 真子
② 生徒指導の充実						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
学校運営	● 心の教育	児童が悩みや不安をかかえた時に相談できる体制は図れたか。	・教育相談週間を設け、児童が相談しやすい場を設ける。 ・保護者へスクールカウンセラーの来校日を知らせ、保護者も相談しやすい体制を作る。	・家庭と連絡を密にみにつけ取り合うように努める。 ・児童支援ケース会議を充実させる。 ・年4回見守りたい子の連絡会と毎月の生徒指導会を実施し、見守りたい子への共通理解を図る。 ・相談体制の充実を図る。 ・毎月1回の生活指導会を実施する。 ・スクールカウンセラーとの連携を図る。 ・「すっきりここにアンケート」を実施し、相談しやすい体制をつくる。	生徒指導 教育相談 部	○松 尾 永石 津和 崎
教育活動	● 心の教育	笑顔であいさつを行ったか。	・元気にあいさつする児童を80%以上にする。	・毎週水曜日に「あいさつ運動」を実施し、あいさつの啓発を行う。 ・教師が率先して、元気なあいさつを行う。 ・「親子でめざそう！ 朝のあいさつ」をPTAと共に具体的に取り組む。	生徒指導	○中 川 江口
学校運営	● いじめ問題への対応	いじめに教職員一体となった対応ができたか。	・いじめに一人では対応することなく、教職員が協力して課題解決にあたる。	・学年グループ、生徒指導部、教育相談部が中心となって、複数の目で児童理解に努め、いじめの防止・対応にあたる。	生徒指導 教頭	○松 尾 永石
教育活動	● いじめ問題への対応	いじめの早期発見と早期対応はできたか。	・いじめを早期に発見し、早期に対応することにより深刻化を防ぐ。	・「いじめの宣言」を児童会と共に行う。 ・年間6回の「すっきりここにアンケート」を行い、いじめの早期発見に努める。 ・毎月10日に「心を考える日」の取り組みを行う。	生徒指導 教育相談 部	○松 尾 南里 津和 崎
③ 体力向上の取り組み						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
教育活動	● 健康・体づくり	外遊びの奨励と体育の充実を図り、体力は向上したか。	・外遊びの奨励と体育活動の充実で体力の向上を図る。 ・自力登校(歩いて登校)する児童を90%以上にする。 ・新体力テストを計画的に実施し、6年間を通じた体力向上に取り組む。	・わくわくタイムでの共遊(異学年交流)や学級の「みんなで遊ぼう」を計画的に実施し、外で遊ぶ楽しさを実感させる。 ・健康な児童は歩いて登校するように呼びかけ、車での送迎を原則禁止とする。 ・実態把握によって、特に落ち込んでいる分野の向上を図る取り組みを行うとともに、6年間を見通した「体づくり運動」に計画的に取り組む。	体育 異学 年交 流	○山 下 井上 小宮 中川
教育活動	● 健康・体づくり	食育指導を通して望ましい食習慣の形成ができたか。	・保健便りや家庭科の授業や学級指導での食育指導を通じ、食に関する啓発・指導を行い、朝食の摂取率を90%以上にする。 ・給食週間の際は、児童の給食委員会の発表で「食の重要性と意義」について全校児童に啓発するための発表の機会を持ち、意識付けを高め、給食完食率を90%以上にする。	・朝食記録用紙(アンケート)や生活点検表の結果をもとに、朝食を摂らない事が多い児童に声をかけ、個人面談や家庭訪問の際に保護者にも理解を求めるとともに、教員からの働きかけを行う。 ・給食委員会を実施し、その際に栄養教諭から朝食の意義や家庭食における栄養バランスの大切さについて講話を行い、食に対する保護者の意識を高める。 ・給食週間では残食の運動を実施し、給食完食への意欲づけや食に関わる様々なものへの感謝の気持ちをもつよう努める。	体育 保健 食育	○山 下 寺井 頭 津和 崎
④ 特別支援教育の充実						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
学校運営	○ 特別支援教育の充実	教職員の知識・理解を深め、具体的な支援の在り方が理解できたか。	・特別支援教育について具体的な支援についての研修を行い、日常の教育的な支援に生かす。	・校内研修会を通じて実践に生かせる内容の研修を行い、教職員の知識・理解を深める。 ・障害のある児童の学校生活支援のための巡回相談員及び専門家を活用し、支援を必要とする児童に対して、合理的な配慮を行う。	特支C 特別支 援	○脳 部 徳永
教育活動	○ 特別支援教育の充実	「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」を作成・更新したか。	・支援が必要な児童に対して、「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」を作成・更新し、効果的な活用を行う。	・支援が必要な全ての児童の「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」を計画的に作成・更新する。	特支C 特別支 援	○脳 部 馬場 原田
⑤ 業務改善・教職員の働き方改善の推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
学校運営	● 業務改善・教職員の働き方改善の推進	業務改善による超過勤務縮減に向けた取組ができたか。	・先を見通した動きのための仕事の「見える化」を工夫。	・「働き方改革」の意識付けを行うため、具体的な数値目標として教職員の時間外勤務について1か月あたり前年度より30分削減する。	校内 労働 安全 衛生 委員 会	○教 頭 山本
学校運営	● 業務改善・教職員の働き方改善の推進	教職員の意識改革を図る取組ができたか。	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効果的な業務への取組を推進する。	・各教職員の勤務時間を確保にはあくするとともに、特定の教職員に業務が集中しないようマネジメントを行う。	校内 労働 安全 衛生 委員 会	○教 頭 山本